

牛久：学校周辺に見る自然

第31号 ひたち野うしく小

2020年6月23日発行

＜ 校庭の樹木と虫たち ～6月のひたち野うしく小 ＞

こんにちは。今回は、ひたち野うしく小校庭の樹木を中心に紹介します。



ガクアジサイ(左上)と、その中央に集まる花(右上)。蜜を吸うセイヨウミツバチ(左下)と、セイヨウアジサイ(右下)。

6月といえばアジサイ。どこの学校にも、よく植えられます。一番よく見るのは、まわりを大きな花びらのようなもので囲まれたガクアジサイでしょうか。じつは花びらに見えるのはガクで、雌しべは退化しているため、実ができません。花粉を運ぶ虫を誘うので、「装飾花(飾り花)」とよばれます。中央に集まる青い小さな花が、実もできる通常の花です。各地で見られるアジサイは、野生種のガクアジサイから装飾花がより多く、ガクがより大きくなる系統を選んで育てつくられた品種だそうで、写真のもたぶんそうでしょう。中にはほとんど装飾花だけになったものもあり、それを「アジサイ」とよぶこともあります。ヨーロッパで品種改良されたセイヨウアジサイも同様で、私には区別が付きません。それでここではガク咲きのものをガクアジサイ、手毬咲きのものをセイヨウアジサイとしました。



プールの近くには、ヤマボウシが咲いていました。第21号のハナミズキに似ていますが、近い仲間です。白い花びらのように見えるのはハナミズキやドクダミ同様、総苞片とよばれ、葉の変化したものです。中央に集まっているのが、本当の花です。虫めがねで、よく見てみましょう。秋に実が熟すと、ハナミズキとの違いがはっきりするでしょう。

ハナミズキのなかま、ヤマボウシ。



第29号牛久二小の、大輪キンシバイたいりんによく似て小型の、キンシバイこがたの花も咲いていました。花も葉も一回り小さく、花が半開きのような状態で咲きます。雄しべがたくさんあって、ミツバチがしきりに訪おとずれていました。中国原産げんさんで、花の形がウメに似て、黄色いからついた名のようにです。

中国原産げんさんの、キンシバイ。



アーモンド(左)と、ハナモモ(右)の実み。

次に、若い実みがなっていた木です。ひたち野うしく小ではおなじみの、アーモンドの実みが、だいぶ大きくなっていました。形も、おもしろいですね。となりのまん丸な実みをつけているのは、ハナモモ。第21号でも紹介しょうかいしましたが、ハナモモは花粉かふんが多く、いっしょに植うえると、アーモンドの実みの着ききもよくなるのですよ。



こちらは、ツバキ。赤くておいしいのですが、皮かわがぶ厚あつくて、中には大きな種しゅ子が出来ます。まだひたち野うしく小がない頃、中根小で種しゅ子から油をとったクラスがあつたのを、なつかしく思い出しました。

ツバキの実み。長く伸びたのは雌しべめのなごり。



フェンスぞいには、オリーブうが植うえられています。目だちませんが今年もたくさんの花をつけ、実みがいっぱい出来そうです。校庭うに植うえられたキンモクセイと同じ、モクセイ科かの木なのです。オリーブの枝は平和へいの象しやう徴ちやうとされ、国際連合こくさいれんごうの旗はたにも使つかわれています。

平和しやうちやうの象しやう徴ちやう、オリーブ。



プロペラのような形の、若い実をつけたイロハモミジ。分かれ目の、ちょっとふくらんでいるのが種子。

遊具の近くには、カエデの木があります。イロハモミジです。プロペラのような形の若い実が、ぐんぐん大きくなってきました。秋に熟すと、風が吹いた時にくるくる回りながら落ちてくるようすが見られますよ。



門の近くのコナラ。小さなドングリが出来ている。ポコッと出ているのは、雌しべの先のなごり。

門の近くにはコナラの木があります。小さなドングリが出来ていました。ときどき見て、大きくなっていくようすを観察しましょう。うろこのようなのは、ドングリのざぶとん(ぼうしと見る人も)です。

最後に、フェンスにからまるツルウメモドキと、イチヨウの葉にとまっていたマメハンミョウ。ツルウメモドキは秋に黄色に熟すと3つに割れ、オレンジ色の仮種皮に包まれた種子が顔を出します。頭が赤いマメハンミョウは、体液に毒があるので触らないようにしましょう。【理科支援員：宮内】



フェンスにからんだツルウメモドキ(左)と、イチヨウの葉にとまるマメハンミョウ(右)。